

# 伊勢市都市マスタープラン

全体構想

Ver.3.0



伊勢市



序 章	伊勢市都市マスタープランとは	
	1 策定の目的	序- 1
	2 都市マスタープランの位置づけ	序- 2
	3 対象地域	序- 3
	4 目標年次	序- 3
	5 成長する都市マスタープラン	序- 4
	6 都市マスタープランの構成	序- 7
第1章	都市づくりの理念と目標	
	1 都市づくりの理念	1- 1
	2 市の特性と将来都市像	1- 2
	3 都市づくりの課題と目標	1- 4
第2章	都市づくりの基本姿勢	
	1 市民主体のまちづくり	2- 1
	2 良好な景観形成の推進	2- 4
	3 取組例と今後の展開	2-10
第3章	都市づくりの方針	
	1 都市づくりの基本的な考え方	3- 1
	2 都市づくりの基本方針	3- 3
第4章	将来都市構造	
	伊勢市の将来都市構造	4- 1
	1 土地利用ゾーン	4- 5
	2 軸の形成	4-11
	3 拠点の形成	4-23
第5章	分野別都市づくりの方針	
	1 分野別都市づくりのあり方	5- 1
	2 分野別都市づくりの体系	5- 2
	(1) 道路・交通	5- 7
	(2) 河川・排水	5-17
	(3) 海岸・港湾	5-23
	(4) 公園	5-29
	(5) 住宅・住環境	5-35
	(6) 上水道・下水道	5-41
	(7) 学校	5-49
	(8) その他	5-53



# 序章 伊勢市都市マスタープランとは



# 1 策定の目的

伊勢市都市マスタープランは、都市計画法第 18 条の 2 に示される「市町村の都市計画に関する基本的な方針」となるべきものであり、長期的な視点から都市づくりの具体的なビジョンを示し、地域別のあるべき市街地像を描くものです。

上位計画である伊勢市総合計画や各種関連計画などを踏まえて、都市づくりの理念と目標、都市骨格と土地利用の基本的な方針などを示します。また地域ごとの課題に応じた都市づくりの整備方針を市民の参加・参画によって定めることにより、都市づくり・まちづくりの総合的な指針とすることを目的としています。

2005（平成 17）年 11 月 1 日、旧伊勢市・旧二見町・旧小俣町・旧御薮村の 4 市町村が合併し、新たな伊勢市が誕生しました。それから 10 年以上が経過し、人口減少や少子高齢化時代の到来や、東日本大震災をはじめとする数々の災害の発生、環境やエネルギー問題など、常に変化し続ける時代の中、現代の都市を取り巻く様々な課題に対応すべく、都市づくり・まちづくりを進めることが求められています。

2013（平成 25）年、当市は第 62 回神宮式年遷宮という大きな節目を迎えました。20 年ごとに行われる神宮式年遷宮を終えた当市のまちづくりは、遷宮を契機としたまち全体の盛り上がりや、次の遷宮につなげるべく、取組を進めていく必要があります。時代の変化に対応する一方で、守り伝えることを大切にしながら都市づくり・まちづくりを進めるために、市民の意見・意向を尊重し、市民が主体となったまちづくりを推進しながら、都市全体の再編・整備を実現していくことを目指します。



## 2 都市マスタープランの位置づけ

「伊勢市都市マスタープラン」は、「伊勢市総合計画」を上位計画として、都市づくり・まちづくりに関する基本的な方針を策定するものです。

策定にあたっては、広域的な都市づくりの計画である「三重県都市マスタープラン」や、市が策定する各種関連計画との整合を図ります。

この伊勢市都市マスタープランをもとに、都市施設の整備に関する分野別の計画を策定し、具体的な都市づくり・まちづくりへと展開していきます。





### 3 対象地域：伊勢市全域

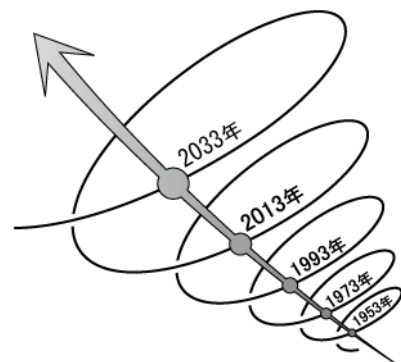
都市づくり・まちづくりは、市街地、農山漁村、海や山の自然域などを一体としてとらえていく必要があります。伊勢市都市マスタープランでは、都市計画区域の内外に関わらず、伊勢市全域を一つのまとまりをもった「都市」であると考え、対象地域は伊勢市全域とします。



### 4 目標年次：2033（令和15）年

20年ごとに行われる神宮式年遷宮と、それに伴うお木曳などの行事は、伊勢市民が長い歴史の中で大切に受け継いできた一大行事です。市民は、神宮式年遷宮を大きな節目として市が発展してきたことを振り返り、それからの20年を新たにスタートさせます。

伊勢市都市マスタープランでは、伊勢独特の20年の時間単位を尊重し、第63回神宮式年遷宮の年である2033（令和15）年を目標年次とします。



# 5 成長する都市マスタープラン

## (1) 旧市町村から現在までの取組

---

伊勢都市計画区域を構成する旧4市町村と玉城町においては、相互に連携・調整を図りつつ、1997(平成9)年に各市町村の都市マスタープランを策定しました。その後、旧伊勢市のみが2003(平成15)年に計画のバージョンアップを行いました。

また旧伊勢市においては、明倫・有緝・厚生地域(1997(平成9)年)、早修・中島地域(1999(平成11)年)、修道・四郷地域(2001(平成13)年)、神<sup>かみやしろ</sup>社・大湊・浜郷地域(2003(平成15)年)の4地域において、市民ワークショップ手法を取り入れて地域別構想を策定しました。

2005(平成17)年11月、旧伊勢市・旧二見町・旧小俣町・旧御菌村の4市町村が合併して新しい伊勢市となり、それまで各市町村が策定してきた都市マスタープランに替わる、新たな将来像を提示することが必要となりました。このことから、旧市町村の計画をたたき台とし、各部門との連携を図りながら、市民意見を取り入れつつ検討を進め、2009(平成21)年5月に新市として最初の都市マスタープランを策定しました。その後、2016(平成28)年に改定を行っています。

現在の都市マスタープランは、旧4市町村における当初の都市マスタープラン(1997(平成9)年策定)から考え方を継承し、土地利用・軸・拠点を構成要素とした将来都市像を掲げています。

## (2) 計画から事業への展開

---

分野別の計画づくりを進めるとともに、具体的な事業の実施を図り、計画から事業へと展開する都市マスタープランを目指します。

また地域別構想を順次策定し、地域ごとの具体的な将来像を示して、市民の意見を事業へと反映することを目指します。

## (3) 市民参加の進展

---

内宮おはらい町、河崎、外宮参道、神社、二見町茶屋をはじめとする市内複数の地域において、市民主導のまちづくり活動が行われています。

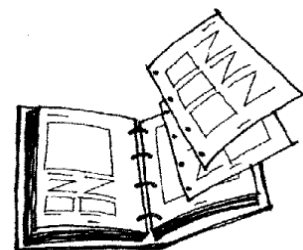
2015(平成27)年4月には、伊勢市ふるさと未来づくり条例を施行しました。現在市内全域において、本条例に基づく地域課題を解決するための新しい地域自治組織である「まちづくり協議会」が活動を進めています。

計画づくりにとどまらず具体的な事業計画においても、これらの組織との連携を図り、市民主体のまちづくりを進めます。

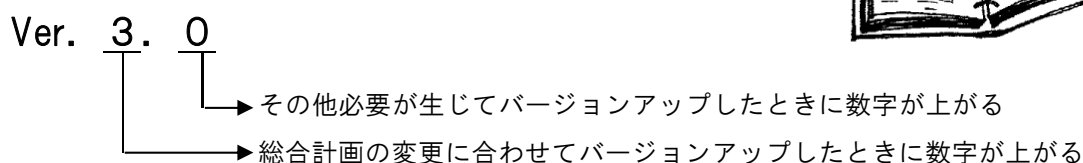
## (4) 計画のバージョンアップ

伊勢市都市マスタープランは、上位計画となる伊勢市総合計画のうち、基本構想（まちづくりの基本理念）や基本計画のうちまちづくりに係る行政運営の基本方針に変更があったときや、新たな関連計画の策定があったとき、また社会情勢の変化により都市づくりの考え方が変更されたときなど、必要に応じてバージョンアップすることとします。バージョンアップの際には地域別構想、分野別の計画などを全体構想に反映します。

また、本全体構想に基づく将来都市像実現に向けての取組の整理など、進行管理についてもその方法を検討します。



### 【バージョンアップについて】



### バージョンアップの経緯

年月	バージョン	備考
2009（平成 21）年 5 月	1.0	策定（市町村合併による）
2011（平成 23）年 3 月	1.1	一部改定
2016（平成 28）年 12 月	2.0	第 2 次伊勢市総合計画の策定に伴うバージョンアップ
2019（令和元年）年 5 月	3.0	第 3 次伊勢市総合計画の策定に伴うバージョンアップ

## (5) 加除式の計画書

伊勢市都市マスタープランの計画書には、ページの加除が可能なファイルが使われています。今後、市内の各地域で策定する地域別構想を順次追加していくとともに、新たな関連計画や社会情勢を踏まえて計画内容をバージョンアップしたときに計画書を差し替えできるように、加除式としています。

## (6) インターネットによる情報交流

インターネットによる活発な情報交流を目指し、市の都市づくり・まちづくりに関するホームページの充実、都市マスタープラン等の計画内容の公開、差し替えられた計画内容の更新などを行います。



伊勢市ホームページ (<http://www.city.ise.mie.jp>)

# 6 都市マスタープランの構成

## 伊勢市の上位計画

**第3次伊勢市総合計画**  
2018(平成30)年7月策定

## 伊勢都市圏の関連計画

**三重県都市マスタープラン**  
三重県都市計画基本方針  
2017(平成29)年3月策定  
**圏域マスタープラン**  
2018(平成30)年3月策定  
**区域マスタープラン**  
2011(平成23)年4月策定

## 三重県の関連計画

**三重県土地利用基本計画**  
2018(平成30)年12月策定

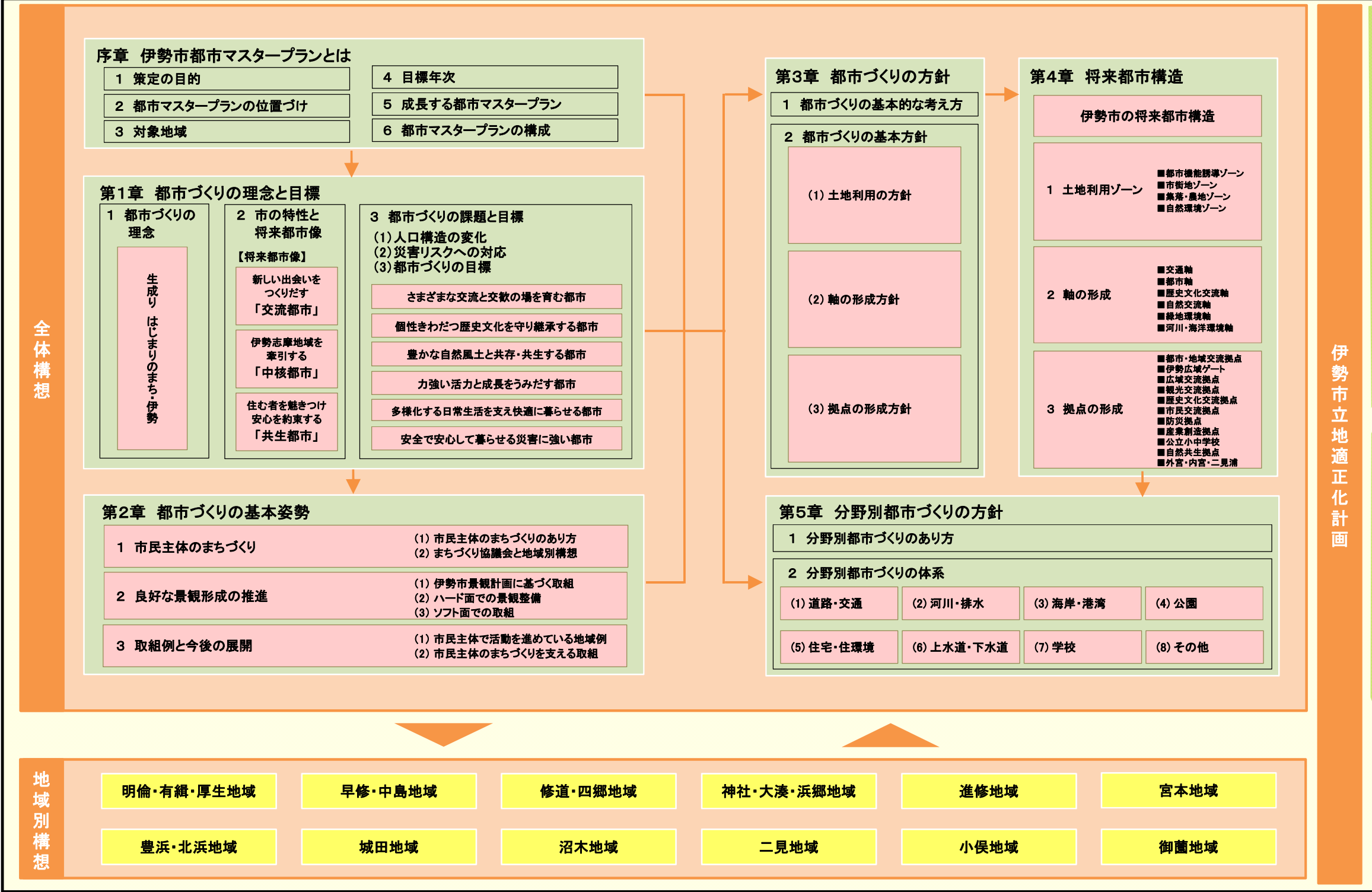
**みえ県民カピジョン  
(第二次行動計画)**  
2018(平成28)年4月策定

## その他の関連計画

**第2次伊勢志摩定住  
自立圏共生ビジョン**  
2019(平成31)年3月策定

広義の都市マスタープラン

### 伊勢市都市マスタープラン (伊勢市の都市計画に関する基本的な方針)



### 土地利用・軸・拠点の計画

**土地利用の計画**  
伊勢市土地利用基本方針  
2011(平成23)年3月策定

**軸の計画**  
伊勢市道路整備プログラム  
2011(平成23)年3月策定

**拠点の計画**  
伊勢市中心市街地活性化基本計画  
2016(平成28)年3月策定  
宇治山田港湾整備(みなとまちづくり)に向けての提言(フォローアップ修正版)  
2010(平成22)年11月改定

### 分野別の計画

伊勢市景観計画  
2018(平成30)年11月改定

伊勢市地域公共交通網形成計画  
2016(平成28)年3月策定

伊勢市交通バリアフリー基本構想  
2017(平成29)年2月策定

伊勢市トンネル長寿命化修繕計画  
2013(平成25)年11月策定

伊勢市橋梁長寿命化修繕計画  
2019(平成31)年3月策定

伊勢市公園施設長寿命化計画  
2014(平成26)年3月策定

伊勢市建築物耐震改修促進計画  
2016(平成28)年4月改定

伊勢市営住宅等長寿命化計画  
2014(平成26)年3月策定

伊勢市空家等対策計画  
2017(平成29)年3月策定

伊勢市流域関連公共下水道基本計画  
2009(平成21)年3月策定

伊勢市水道事業ビジョン  
2019(平成31)年3月策定

伊勢市下水道長寿命化計画  
2017(平成29)年3月策定

伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画  
2017(平成29)年3月修正

新市立伊勢総合病院建設基本計画  
2013(平成25)年3月策定

伊勢市立地適正化計画

### 市が策定する関連計画

伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
2015(平成27)年10月策定

伊勢市地域防災計画  
2018(平成30)年3月改定

第2期伊勢市環境基本計画  
2015(平成27)年3月策定

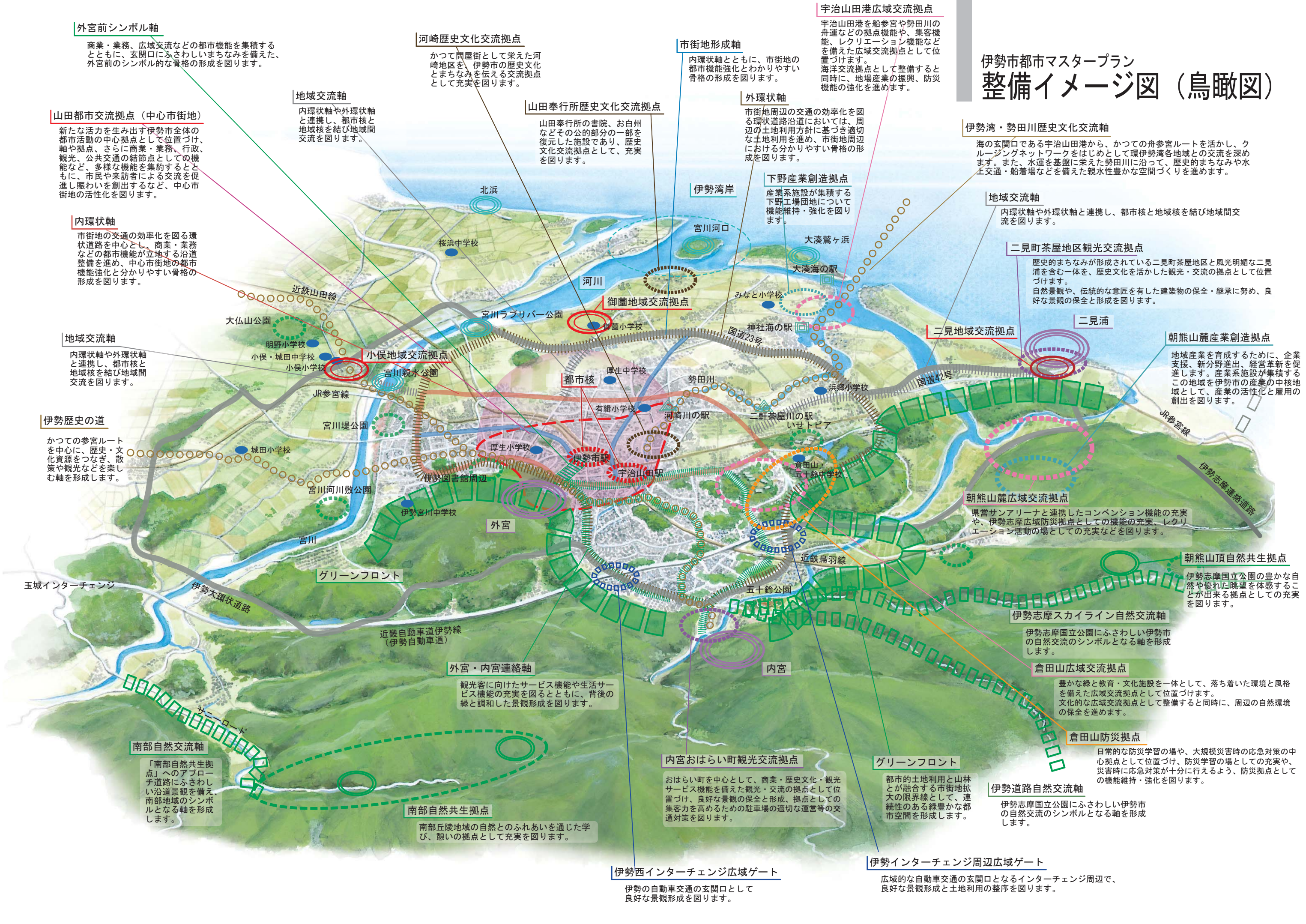
伊勢市地域福祉計画  
2019(平成31)年3月策定

第二次伊勢市農村振興基本計画  
2018(平成30)年3月策定

伊勢市観光振興基本計画  
2018(平成30)年3月改定

伊勢市公共施設等総合管理計画  
2016(平成28)年3月策定

# 伊勢市都市マスタープラン 整備イメージ図（鳥瞰図）



### 外宮前シンボル軸

商業・業務、広域交流などの都市機能を集積するとともに、玄関口にふさわしいまちなみを備えた、外宮前のシンボリックな骨格の形成を図ります。

### 山田都市交流拠点（中心市街地）

新たな活力を生み出す伊勢市全体の都市活動の中心拠点として位置づけ、軸や拠点、さらに商業・業務、行政、観光、公共交通の結節点としての機能など、多様な機能を集約するとともに、市民や来訪者による交流を促進し賑わいを創出するなど、中心市街地の活性化を図ります。

### 内環状軸

市街地の交通の効率化を図る環状道路を中心とし、商業・業務などの都市機能が立地する沿道整備を進め、中心市街地の都市機能強化と分かりやすい骨格の形成を図ります。

### 地域交流軸

内環状軸や外環状軸と連携し、都市核と地域核を結び地域間交流を図ります。

### 伊勢歴史の道

かつての参宮ルートを中心に、歴史・文化資源をつなぎ、散策や観光などを楽しむ軸を形成します。

### 河崎歴史文化交流拠点

かつて問屋街として栄えた河崎地区を、伊勢市の歴史文化とまちなみを伝える交流拠点として充実を図ります。

### 山田奉行所歴史文化交流拠点

山田奉行所の書院、お白州などその公的部分の一部を復元した施設であり、歴史文化交流拠点として、充実を図ります。

### 市街地形成軸

内環状軸とともに、市街地の都市機能強化とわかりやすい骨格の形成を図ります。

### 外環状軸

市街地周辺の交通の効率化を図る環状道路沿道においては、周辺の土地利用方針に基づき適切な土地利用を進め、市街地周辺における分かりやすい骨格の形成を図ります。

### 下野産業創造拠点

産業系施設が集積する下野工場団地について機能維持・強化を図ります。

### 御園地域交流拠点

御園小学校

### 小俣地域交流拠点

小俣小学校

### 都市核

伊勢市駅

### 二見地域交流拠点

二見浦

### 朝熊山麓産業創造拠点

地域産業を育成するために、企業支援、新分野進出、経営革新を促進します。産業系施設が集積するこの地域を伊勢市の産業の中核地域として、産業の活性化と雇用の創出を図ります。

### 朝熊山麓広域交流拠点

県営サンアリーナと連携したコンベンション機能の充実や、伊勢志摩広域防災拠点としての機能の充実、レクリエーション活動の場としての充実などを図ります。

### 朝熊山頂自然共生拠点

伊勢志摩国立公園の豊かな自然や優れた眺望を体感することが出来る拠点としての充実を図ります。

### 伊勢志摩スカイライン自然交流軸

伊勢志摩国立公園にふさわしい伊勢市の自然交流のシンボルとなる軸を形成します。

### 倉田山広域交流拠点

豊かな緑と教育・文化施設を一体として、落ち着いた環境と風格を備えた広域交流拠点として位置づけます。文化的な広域交流拠点として整備すると同時に、周辺の自然環境の保全を進めます。

### 倉田山防災拠点

日常的な防災学習の場や、大規模災害時の応急対策の中心拠点として位置づけ、防災学習の場としての充実や、災害時に応急対策が十分に行えるよう、防災拠点としての機能維持・強化を図ります。

### 伊勢道路自然交流軸

伊勢志摩国立公園にふさわしい伊勢市の自然交流のシンボルとなる軸を形成します。

### 伊勢インターチェンジ周辺広域ゲート

広域的な自動車交通の玄関口となるインターチェンジ周辺で、良好な景観形成と土地利用の秩序を図ります。

### 伊勢西インターチェンジ広域ゲート

伊勢の自動車交通の玄関口として良好な景観形成を図ります。

### 南部自然交流軸

「南部自然共生拠点」へのアプローチ道路にふさわしい沿道景観を備え、南部地域のシンボルとなる軸を形成します。

### 南部自然共生拠点

南部丘陵地域の自然とのふれあいを通じた学び、憩いの拠点として充実を図ります。

### 外宮・内宮連絡軸

観光客に向けたサービス機能や生活サービス機能の充実を図るとともに、背後の緑と調和した景観形成を図ります。

### 内宮おはらい町観光交流拠点

おはらい町を中心として、商業・歴史文化・観光サービス機能を備えた観光・交流の拠点として位置づけ、良好な景観の保全と形成、拠点としての集客力を高めるための駐車場の適切な運営等の交通対策を図ります。

### グリーンフロント

都市的土地利用と山林とが融合する市街地拡大の限界線として、連続性のある緑豊かな都市空間を形成します。